

課題

町内3小学校を、専科教員が兼務して指導することで、指導内容やカリキュラムが整えられてきた一方、中学校との接続を意識した指導の必要性や小学校での指導内容を考慮した中学校の指導の必要性を感じた。

具体的な取組と工夫

- 町内小・中学校の児童生徒の実態等の共有
 - ・英語専科教員及びALTと、各校の英語担当者との今年度の英語の授業における方向性の確認
 - ・小学校での授業内容の交流と中学校での指導の課題の交流
- 中学校の授業参観
 - ・互いにコミュニケーションを図る授業展開の確認
 - ・中学校で重視する英語教育と小学校での英語教育の授業を通したベクトル合わせ
 - ・小・中学校それぞれの学習課題について確認
- 小中連携をテーマにしたオンライン研修会（講師招聘）
 - ・教科書から見た小中接続
 - ・評価から見た小中接続
- 授業改善に向けた教材・教具の活用法についての研修
 - ・書く活動における板書の在り方
 - ・授業に効果的な教材・教具の研究と活用方法の工夫・研修



オンラインによる研修

成果

- 英語専科教員が小学校第4学年から第6学年の授業を進めるが、担任が指導する小学校第3学年の外国語活動においても、中学校への接続を意識して取り組んでいく必要性を共有できた。
- 中学校においてもALTと連携しながら生徒同士のコミュニケーションを大切に授業が行われていることを実感し、小学校における取組の参考になった。
- 令和3年度全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙「英語の勉強は好きですか」への肯定的な回答が小学校81.0ポイント(全国公立平均63.8ポイント)、中学校64ポイント(同56.7ポイント)とそれぞれ上回っている。
- 小中連携をテーマにした研修会では、小学校から中学校への系統性を意識した指導を意識するとともに、課題の設定と評価の在り方についても学んだ。

課題及び改善案

- 専科教員による授業は、町内の各小学校の指導においては差のない指導ができる反面、担当に任せきりになってしまうことになる。協議会や研修等を通じて担当の負担感を減らすようにしたい。
- 小中の連携は、それぞれの校種で何を大切にするかを知り、課題をそれぞれに設定し互いにそれを生かすような指導をしていく必要がある。